

(安定的に農業が続いていくために)

山田錦は、特A地区中心に、酒蔵との絆をさらに強化し、村米（契約）栽培を維持することが大事だ。そして、高温対策技術の研究普及を進めて、高品質の山田錦が安定的に生産されているイメージを持ちたい。それを作る担い手は、スマート農業技術をうまく活用し、効率的な農作業を行う。そして、この北播磨は、京阪神の後背地帯で、新規就農を希望する人の受け皿ということにもなる。そういう人を受け入れられる体質をうまく作っていくことが必要かと思う。

(農業関係人口の確保)

山田錦は、数年前までは右肩上がりだったが、コロナ禍で需給のバランスが大きく狂った。消費も、特定名称酒と普通酒の供給の割合が、ここ2年ほどで変わってきている。いろいろな組織が広域化し、すべて平均的に物事を進めると、地域に合った適地適作が薄れる。山田錦を中心にする農業関係人口を確保する取組みを進めないと、山田錦だけあっても、地域、農村などが廃れてしまっただけではない。

(地域特性を大事に)

農協や市町が合併して大きくなり、地域の特徴が無くなった。兼業農家は、あと4～5年すると、後継者問題が出てくると思う。定年が伸びたら帰ってこない。山田錦は作りすぎた。今は酒の消費量が、多いときの1/3になった。酒屋も付加価値をつけた高い酒を売ろうとしているが、酒の消費が伸びるか疑問がある。地域特性をよく考えて仕事をするのが大事だ。

(若い人が住みたい環境づくり)

今でも集落では、大半は65歳以上で作業をしている。30年後に向けて、子どもの医療費の無料化など、若い人がそこに住みたいと思う環境づくりをすると、後継者についても考えていけるのではないか。将来のビジョンは、いいことばかり並べず、困っていることについて改善することを考えないとだめだ。山田錦は、全国の産地の中で、兵庫県がなぜ光っているのか、なぜ兵庫県の山田錦がいいのか、何をもちってPRするのかということが、課題ではないかと思う。

(今後の北播磨の農業のあり方)

山田錦は、昨今、生産調整がなくなり増産してきたが、コロナの影響が非常に大きく、酒屋も非常に苦労されている。未耕作地がたくさん目につく。ここ近年、豪雨災害が多いが、水田は田んぼダムと言われ、水害を守る大きな役割もしている。後継者がいない農家の水田の管理も踏まえて、今後の北播磨の農業のあり方について、良い方向に導いてほしい。

(コロナ禍、みんなの協力が大事)

私の地域も圃場整備をしたが、後継者がいない。作り手がない田を頼まれ引き受けていたが、今は若い後継者がいる人に作ってもらっているような現状だ。3軒の酒蔵と村米制度をしていたが、このコロナで、2軒の酒蔵で数量を半分に減らしてほしいとあり状況は厳しい。コロナのため酒蔵が困っていると広告を出すよう、農協に依頼し出させた。みんなの協力が大事だと思う。

(新規参入者を受け入れる体制づくりを)

テレワークで、会社終わりに一杯が一切ないので、一升瓶が出ない。酒が動かず、米が余っているという現状だ。農業に新規参入した私が感じるのは、地域の方に受け入れてもらえるのが大事だと思う。私の場合は、幸い地域の方とうまくやっているが、非農家の人がいろいろ言う。新規

参入者が入りやすいよう、地域で受け入れ体制を整えることで、もっと変わらないかと思う。受け皿ではないが、何か盾になってくれるようなものがあると、新規参入もしやすくなると思う。

(北播磨市にする)

北播磨市にし、その中で、田園、工業、ゴルフ、居住とゾーンを分ければいい。各市で管轄している公園を北播磨市として統一管理し、各公園に特徴を持たせた新たなツアーなどを組めばいい。山田錦の質が悪くなっている。地域を特化し、そこで良い品質の山田錦を作ってもらい補助金を出す。高い値段で買えば意欲が出てくる。そして、私の持論は田をすべて国庫にする。固定資産税の代わりに使用料を払う。農家をやめる時点で国庫へ返す。それを使う人を募集し、会社でも営農でもいいが、その人に貸す。そうすると放棄田もなくなる。

(日本酒の文化を守る)

子ども時代は、祖父も父も毎晩晩酌し、地域の祭りでも日本酒を振る舞い、日本酒の文化があった。そういう文化が、失われてきている。私は、酒米「山田錦」を愛する会を立ち上げたが、高齢化し後継者が育たない。中村哲さんのことが好きで、「一隅を照らす」で自分がやれること少しでもやる。打ち上げ花火でもいいから、波紋でも広がったら良いという気持ちでやっている。

(農地の多面的機能事業の活用)

農地の多面的機能事業がある。年に数回、農家と非農家と一緒に草刈等の池の管理をし、水田が地域の被害などを守ることを、非農家にも分かってもらう事業だ。私の地域の営農組合も、75歳のオペレーターが頑張っているが、高齢化の波には勝てない。北播磨を多面的機能事業など使いながら、地域住民と農業が共生する豊かな田園都市にしたい。そして、水害や自然災害から守られているのは、水田のダム機能等、多面的機能のおかげということに理解を得て、地域の企業からオペレーター農家への資金を援助してもらおうという仕組みがつかれないかと思っている。

(山田錦の品種改良)

私の地域に30代で会社を立ち上げ、ドローン、ICTなど活用している若い子がいるが、30年後、ほとんど機械は自動化されていると彼は思っている。彼の話では、山田錦は85年も経つから、多分30年は持たないので、ゲノム編集で、暑さに強い山田錦を改良する必要があると言っていた。または、山田勢三郎が発見した本当に暑さに強い穂を見つけてそれを増やすのも一つ。そんなことができれば、山田勢三郎が140年前に作った山田穂、種の保存で暑さに強い山田錦を開発していければ、ここでも30年後は今の山田錦が生産されていると思う。

(日本酒のドンペリを作る)

私の夢は、日本酒のドンペリを作り、海外で、超高級ワイン、ジャパニーズワインドンペリと飲まれる。そして日本の高価なドンペリが、日本酒のドンペリだった。そんな世界がきてほしい。しかし、そうなったときに、北播磨の山田錦が、他の地域の山田錦に負けていたのでは話にならない。二等米しか作れない地域は、もう撤退しないとだめだ。北播磨の山田錦の質を、北播磨の農家が下げてはいけない。かつてここは、日本一の酒米山田錦が作られた地域ですという歴史になってしまわないように、私達ができることは、少しずつでもやろうとがんばっている。

(地域割りをして農業を)

誰でも作る山田錦になってしまったから、吉川等で絶対によその酒米には負けない山田錦作りを任せる。そして小野、加西は、食用米や野菜を作り、加美町では、楽農生活をするように、よその地域から人を招き入れる。そうするには、北播磨市をつくり、地域割りをし、北播磨は他の市に負けない、特徴のある市だというものを作らないと、30年先はないと思う。